

報 告

患者図書室用医学医療情報リンク集改定と
ボランティアへの情報検索研修Revision of Patient Library for Medical Information Links
and Information Retrieval Training for Volunteer有 田 由美子* 名 和 淳*² 柏 木 夕 香*²神 保 圭 子*² 齋 藤 義 之*³Yumiko ARITA*, Jun NAWA*², Yuka KASHIWAGI*²Keiko JINBO*² and Yoshiyuki SAITO*³

要 旨

当院の患者図書室では、インターネット上の医学医療情報を検索する参考サイトのリンク集をトップページにしたパソコンを設置している。このたびリンク集を改定し、ボランティアにリンクサイトを利用した情報検索方法の研修を行なった。患者図書室を利用する患者、家族のインターネットの利用は減少しているものの、常駐するボランティアは質問があった場合に室内資料だけでなく、インターネットから情報を収集し提供している。研修は、ボランティアがより信頼性のある情報提供ができるよう支援することを目的とした。

はじめに

当院ではボランティアの協力を得て、患者と家族に病気についての正しい理解を得ることができるように、わかりやすい医学・医療関連図書を提供する「からだのとしょかん」を1997年から開設している。また室内にはパソコンを設置し、インターネット上の医学医療情報を検索する参考サイトのリンク集をトップページにしている。

患者図書室を利用する患者、家族のインターネットの利用は減少しているものの、常駐するボランティアに質問があった場合は室内資料だけでなく、インターネットから情報を収集して提供していることから、このたびリンク集の見直しを行なった。より信頼性のある情報入手ができるよう支援するため、ボランティアにリンクサイトを使用して情報検索方法の研修を行なったので、改定したリンク集内容と併せて報告する。

I 医学医療情報検索リンク集の改定

からだのとしょかんは院内のサポートケア委員会が運営しており、リンク集の改定は委員内のからだ

のとしょかんを担当するグループで検討された。最初のリンク設定から10年以上経過しているものの、当院ががんセンターであることから中心となるリンクはがん関連情報であり、大幅なサイトの追加・変更は少ないが、次のように改定した。

1. トップ画面の変更

これまではサイト名が全部見えるように設定していたが、縦に長くなり下の方はスクロールしないと現れてこないため利用しにくい状態であった。各分類の名称を表記して、クリックで現れるように変更した(図1)。名称は次のとおりである。

- ・ Web上の医学情報を利用するには
- ・ このページを利用する時の注意
- ・ がんの説明・拠点病院一覧・緩和ケア・がんのパンフレット
- ・ 家庭の医学・薬・診療ガイドライン
- ・ 患者会・闘病記・病の語り
- ・ 他施設の情報

2. 「Web上の医学情報を利用するには」の項を追加

からだのとしょかんの設置目的と、このページを利用する時の注意としての免責事項は最初の設定時から表記していたが、Web上の医学情報を利用する

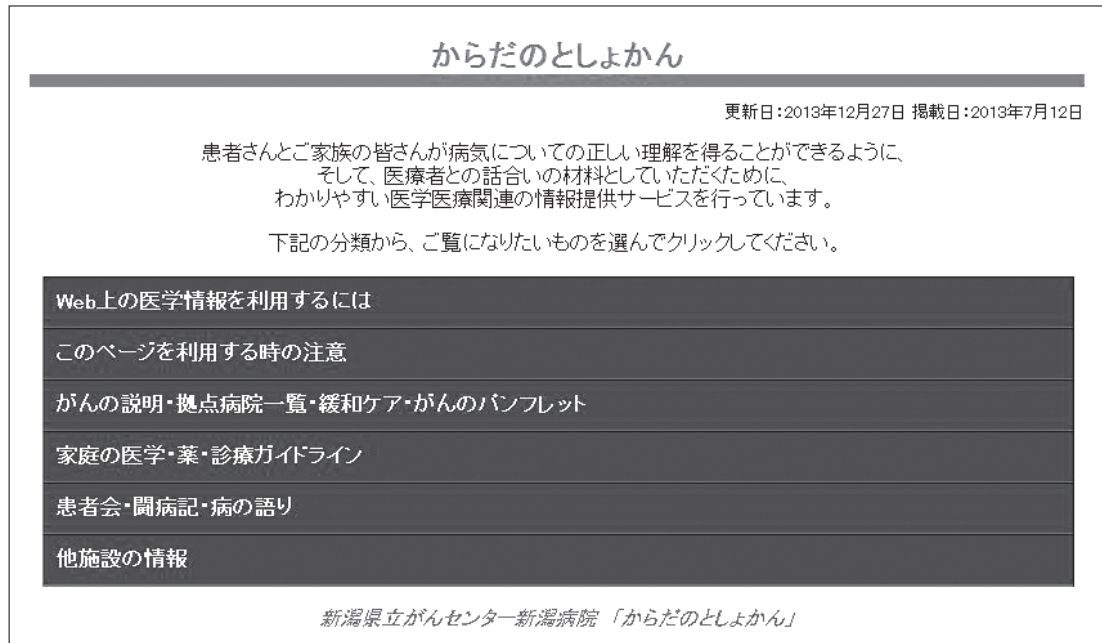


図1 リンク集トップ画面

時の注意や、より信頼性のある情報を室内で入手するための基本事項は明記していなかった。検索する際に信頼性を担保するポイントとなるものとして追加した。内容は次のとおりである。

- 1) 信頼性を確認する
 - ① 開設者が明記されている
 - ② 営利性のない情報である
 - ③ 客観的な裏付けのある、科学的な情報である
 - ④ 公共の医療機関、公的研究機関のサイトである
- 2) 最新更新日を確認する
- 3) 複数のサイトから入手して検討する
- 4) 情報利用の結果を冷静に評価する
- 5) 疑問は専門家のアドバイスを求める

3. 追加・変更サイト

質の高い、信頼性のある情報を入手するためには日本インターネット医療協議会のeヘルス倫理コード¹⁾に準拠したサイトを選ぶ必要がある。併せて、追加についてはサポートケア委員からの提案サイトと、からだのとしょかん内での利用が多かったサイト、他施設の患者図書室で運用する次の3つのリンク集を参考に選択、検討した。

- ・KONPAS (慶應義塾大学病院) <http://kompas.hosp.keio.ac.jp/index.html>
- ・東邦大学からだのとしょく <http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/>
- ・からだこころの情報センター (医学図書館協会等6図書館団体共同企画)

<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/life/index.html>
追加検討した内容は次のとおりである。

- ・緩和ケア関連サイト
- ・よく貸出される図書のため、貸出中でもサイトで情報を入手できるサイト
- ・患者向け冊子のダウンロードできるサイトで、内容更新に素早く対応できるようにする
- ・利用者、スタッフともに利用の多いサイトでこれまでリンクがなかったもの
- ・サポートケア委員から提案の薬剤情報サイト
- ・無料で文献を入手できるサイトの整理
- ・同じ病気の人の話を聞きたいという利用者からの希望に答えるサイト
- ・退院後の地域病院を調べたいという利用者からの希望に答えるサイト

4. 利用サイトの統計

リンク集の公開は室内限定でおこなっている。これは、室内で利用されたリンクサイトごとの利用回数の統計を取るため、今後の改定に反映させる予定である。

5. 設定日と更新日の明記

今回の改定は設定からかなり時間が経過した。リンクのURLや内容の変化などのチェックとともに、設定リンクの変更検討などが定期的に行なわれるよう、改めて設定日と更新日を明記した。

II. 設定リンク内容

設定したリンクは次のとおりである。

1) がんの説明・拠点病院一覧・緩和ケア・がんのパフレット

がんの説明

- 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス
<http://ganjoho.jp/public/index.html>
- 新潟県立がんセンター新潟病院がんおよび各種疾患についての説明
<http://www.niigata-cc.jp/contents/disease/index.html>
- IMIC ライブラリ がん Info (国際医学情報センター) <http://www.imic.or.jp/library/cancer/>
- キャンサーネットジャパン (NPO 法人キャンサーネットジャパン) <http://www.cancernet.jp/>
- がん情報サイト Cancer Information Japan (財) 先端医療振興財団 臨床研究情報センター)
<http://cancerinfo.tri-kobe.org/>
- がん・ガン・癌 スーパーリンク (有限会社ヒューマンバランス) <http://gan3.com/>

がん拠点病院一覧

- 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設一覧 (全国がん(成人病)センター協議会)
<http://www.zengankyo.ncc.go.jp/organization/list.html>
- がん診療連携拠点病院指定一覧表 (厚生労働省) <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan04/index.html>
- 緩和ケア病棟のある病院一覧 (国立がん研究センターがん対策情報センター)
<http://hospdb.ganjoho.jp/kyotendb.nsf/fTopKanwa?OpenForm>

緩和ケア・治療の悩みと対策の工夫・代替医療

- 緩和ケア.net がまんしないがん治療 (日本緩和医療学会) <http://www.kanwacare.net/>
- サバイバーシップ 抗がん剤・放射線治療の悩みに向きあう (静岡県立静岡がんセンター)
<http://survivorship.jp/>
- がんの補完代替医療ガイドブック第3版 pdf 版 (「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班) https://hfnet.nih.go.jp/usr/kiso/pamphlet/cam_guide_120222.pdf

がん情報出版社のサイト

- がんサポート (株) エビデンス社 <http://gansupport.jp/>
- がんナビ (日経BP社) <http://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/cancernavi/>

がんのパフレット

- がんのパフレット (がん研究振興財団) <http://www.fpcr.or.jp/publication/others.html>
- がんの冊子 各種がんシリーズ (国立がん研究センターがん対策情報センター)
http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/cancer.html

2) 家庭の医学・薬・診療ガイドライン

家庭の医学・検索エンジン

- メルクマニュアル医学百科 家庭版 (MSD) <http://www.merckmanuals.jp/home/index.html>
- Yahoo! Japan <http://www.yahoo.co.jp/>
- Google <https://www.google.co.jp/>

診療ガイドライン

- Minds 医療情報サービス (日本医療機能評価機構)
http://minds.jcqh.or.jp/n/public_user_main.php?main_tab=1&menu_id=1
- 診療ガイドライン (東邦大学医学メディアセンター) http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/

薬

- 医薬品情報データベース (日本医薬情報センター) http://database.japic.or.jp/is/top/index.jsp
- 医薬品医療機器情報提供ホームページ (PMDA) (医薬品医療機器総合機構)
http://www.info.pmda.go.jp/index.html
- おくすり110番病院の薬がよくわかるホームページ (おくすり110番ファーマ フレンド)
http://www.jah.ne.jp/~kako/

日本の文献を探す

- CiNii Articles 日本の論文をさがす (国立情報学研究所) http://ci.nii.ac.jp/
- J-STAGE (国内無料文献サイト 一部会員限定あり) (J-STAGE 独立行政法人 科学技術振興機構)
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja

※文献入手には有料のものがあります。詳しくは係にお尋ねください。

外国の文献を探す

- Pub Med (文献検索 英文) (National Center for Biotechnology Information, U.S. National Library of Medicine) http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed
- 中央図書室電子ジャーナル (無料文献サイト) (新潟県立がんセンター新潟病院中央図書室)
http://atoz.ebsco.com/Titles/10747

3) 患者会・闘病記・病の語り

患者会

- 楽患ねっと (NPO 法人楽患ねっと) http://www.rakkan.net/
- Primed 全国患者会障害者団体のリンク集 (株式会社プリメド社) (現在患者会の検索ができないためリンク未設定)

闘病記

- on-line 古書店パラメディカ 闘病記&一般向医療関連書 (店主 星野史雄)
http://homepage3.nifty.com/paramedica/
- 闘病記ライブラリー (NPO 法人連想出版) http://toubyoki.info/

病の語り

- 健康と病いの語りディペックス・ジャパン (NPO 法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン)
http://www.dipex-j.org/

4) 他施設の情報

行政機関

- [厚生労働省](http://www.mhlw.go.jp/) <http://www.mhlw.go.jp/>
- [新潟県](http://www.pref.niigata.lg.jp/) <http://www.pref.niigata.lg.jp/>
- [新潟市](http://www.city.niigata.lg.jp/) <http://www.city.niigata.lg.jp/>

医療施設・医療者検索

- [にいがた医療情報ネット](http://qq.niigata-iyaku.jp/) <http://qq.niigata-iyaku.jp/>
- [病院検索サイト](http://www.10man-doc.co.jp/) <http://www.10man-doc.co.jp/>
- [新潟大学医歯学総合病院](http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/) <http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/>

図書館

- [新潟県立図書館](http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/) <http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>
- [新潟市の図書館](http://www.niigatacitylib.jp/) <http://www.niigatacitylib.jp/>
- [新潟大学医歯学図書館](http://www.lib.niigata-u.ac.jp/Bunkan/) <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/Bunkan/>

Ⅲ. ボランティアへの情報検索研修

有田が2013年5月に行なった患者図書室ボランティアへの研修アンケート²⁾では、図書については新人研修として行なわれているのは、活動の基本(貸出の基準やルールなど)、資料整理・受入・分類、レファレンスワーク、図書修理の方法と実際であった。また要望が多い研修は、医療情報の資料提供の仕方、資料の探し方、図書分類についてであった。当院のボランティアからも同様の希望を聞いていたので、2012年は図書資料の分類と検索方法について研修を行なった。今回は改定したリンク集を使って、インターネットから情報を検索する研修を前回同様司書が行なった。

以前のインターネット研修は時間を決めて、参加者を前にパソコンで講義する形であったが、今回は一人ひとりがパソコンに触って実際に検索する方法とし、活動日の一定時間をあてた。また、個々のパソコン使用技量を計るための確認チェック表を作成し、それをもとに研修していった。

1. 確認レベルチェック表

ボランティアは25名おり、主婦や定年退職後の方、看護師など背景はバラエティである。パソコンの使用状況も不明なため、確認レベルチェック表に自分ができるものにチェックを入れてもらい現状を先に把握した。電源を入れて消すことができるだけの方、印刷までできる方とレベルにばらつきがあった。

研修目標は、電源を入れてインターネットを立ち上げるなど初歩的な操作ができ、利用者の質問から該当する検索サイトを見つけ検索し、印刷して提供する、探したサイトがリンクされていない場合はお気に入りに入れて情報を共有することができる、また、補充のためのパンフレット印刷ができるようになることを目標とし、便宜上の級を設け一人3回に分けて行なった(表)。

2. 研修時にボランティアが検索したもの

ボランティアはこれまでリンク集があることは知っていても、実際に使用するのはYahooと国立がん研究センターの各種がんの解説が中心であった。そのため研修では、前述のチェック表に沿ったテキストを作成して配布し、全てのリンクにアクセスして解説し内容を知ってもらい、進めて行った。各行程の中で実際に検索してもらったものは、次のものである。これらは利用者から質問が多いものを勘案した。

- 1) 当院ホームページの内容確認(外来診療予定表、医師スタッフ一覧など)
- 2) 「病の語り」から1つ話を聞いてもらう
- 3) 「にいがた医療情報ネット」から、居住地近くの開業医を探す
- 4) 例題を出して検索「後腹膜腫瘍の治療について知りたい」

①後腹膜とはどの部分か ②後腹膜腫瘍とは ③その治療とは ④どこの病院で治療できるかの順序

パソコン研修のためのチェック表

1	パソコン電源のON OFFができる	初級
2	インターネットを立ち上げられる	
3	からだのとしょかんのリンク集画面を出せる	
4	リンク集を使って、利用者の質問の回答になるページを出せる	中級
5	検索エンジン(Google,Yahoo等)を使って、利用者の質問の回答となるサイトを探すことができる	
6	5のサイトでは、病気の解説や医療関連サイトの信頼性のチェックをしている	上級
7	5のサイトの画面を印刷できる	
8	5のサイトをお気に入りに入れることができる	
9	パンフレットのサイト(国立がん情報センター、がん研究推進財団等)をだせる	
10	パンフレットの印刷(冊子形、裏表)ができる	特級

で検索の練習を行なった。「Web上の医学情報を利用するには」の項に習い、Google で出てきたサイトの信頼性を計るポイントを確認しながら、解剖図のあるサイト、分かりやすい説明のあるサイト、がん診療連携拠点病院のサイトから治療している病院を検索して研修した。

IV 結果

リンク集改定と、ボランティアにリンク集を利用してインターネットからの情報検索研修を行なった。

リンク集の改定はeヘルス倫理コードに準拠したサイトであること、リンクが多すぎても使いきれないので選定が必要であること、掲載後にリンク内容が変更になったものがありインターネットの情報変動の動きは常にチェックが必要なことを再認識した。

ボランティアからの研修についての反応は、「各リンクサイトの内容が分かった、信頼性のある情報検索をしたい、印刷の仕方が分かった等」、前向きなものがあるものの、パソコンに苦手意識のある方は、「研修は緊張した、覚えきれない、前回の内容

を忘れてしまった等」であった。そのため、前回の研修内容を復習してから次の研修に入ったり、忘れてもボランティアの活動は2人ペアでおこなうこと、司書がサポートするので大丈夫なことを伝えながら行なった。研修終了後は実際にリンク集を活用しながら情報提供をしていることが日誌から伺えた。

おわりに

からだのとしょかんの設立目的は、患者と家族が病気についての正しい理解を得ること、医療者との話合いの材料としてもらうため、わかりやすい医学医療関連の情報提供をすることである。しかし来室者は情報を求めるだけでなく、ボランティアスタッフとの会話を求めている方も多い。ボランティアは入院という非日常を過ごす患者や家族に対し、第3者として話し易いという特性を生かしていただきながら、医学医療情報提供の協働者としても病院スタッフと力を合わせていただけるよう、サポートケア委員会として支援していきたい。

参考文献

- 1) eヘルス倫理コード：日本インターネット医療協議会。[2014.1.4引用] http://www.jima.or.jp/ehealth_code/about.html
- 2) 有田由美子：患者図書室ボランティアのための院内研修についてのアンケート報告。県立がんセンター新潟病院医誌。52(2):123-126, 2013.